

特集

金比羅山古墳の姿に迫る

金比羅山古墳 Q&A

01

どんな古墳ですか？

全長約81m、北部九州でも最大級の大規模な前方後円墳です。3世紀末～4世紀初め頃に築造されたと見られ、周溝やふき石、埴輪を持たず、地山を削り取って築造されたと考えられます。

02

誰が埋葬されている？

具体的な人物を特定することは難しいのですが、全長約81mという規模を考えると、相当な有力者が埋葬されていることは間違いなく、地域を治めていた豪族の首長である可能性が高いです。

03

内部はどうなっている？

レーダー調査で石材などの反応が見られなかったことから、石室や石棺が存在する可能性は低いと考えられます。被葬者は木棺で埋葬されたと推測され、副葬品などについては不明です。

04

内部の発掘はしないの？

金比羅山古墳は非常に保存状態の良い古墳です。発掘すると形状が崩れる可能性があり、未来に残すべき文化遺産として維持するため、現時点では内部の発掘は考えられていません。

05

見学はできますか？

山道を通りますので、見学の際は文化財振興係（王塚装飾古墳館内）までご連絡ください。なお、現在、金比羅山古墳への遊歩道の整備を検討中です。

【金比羅山古墳に関する問合先】

社会教育課 文化財振興係
（王塚装飾古墳館内）
☎65・2900

▶九州大学が製作した金比羅山古墳の三次元図。▼現在の金比羅山古墳の様子。盛り上がっている部分が後円部で、写真左手前に向かって前方部が伸びています。

